

## アカモク養殖用種苗の生産

アカモクは、近年、全国的に需要が拡大している食用海藻です。販売されているほとんどのアカモクは天然ものですが、年変動が大きいいため、収穫量が安定しないことが問題となっています。京都府では全国に先駆けて、アカモクの種苗生産および養殖の技術開発に取り組み、近年では府全体で数十トン規模での生産が可能になりました。

アカモク養殖の生産工程は、6月頃に幼胚(種)を蒔き、陸上の水槽で5-10cmまで育てた種苗を、10月頃に海面の養殖施設に沖出し<sup>※1</sup>して翌2月頃に収穫するもので、現在は陸上生産(立体攪拌培養<sup>※2</sup>)の段階です。今年は平年より気温が高くなると予想されており、海水温も高くなると考えられます。アカモクの種苗生産にとって、極端な高水温は厳しい条件ですが、漁業者に良質な種苗を必要量供給するため、過去の知見・経験を活かしたきめ細かな管理を行っていきます。

※1 沖出し:陸上の水槽で生産した種苗を大きく育てるため、海の養殖施設に移動させること。

※2 立体攪拌培養:水槽底面から空気を出し、種苗を攪拌しながら培養する方法。  
個々の種苗に光がまんべんなく当たることで成長が促進される。  
(特許取得技術)



培養開始時の種苗(約10mm)



1,000L水槽による培養